

エコアクション21環境経営レポート

活動対象期間：2023年11月～2024年10月

発行：2024年 11月 25日



M 株式会社 明王化成



組織の概要

(1) 事業所名 及び 代表者名

株式会社 明王化成

代表取締役 坂井 聡一郎

(2) 所在地

本 社：東京都大田区大森北3-4-18

吾妻ビル 102号室

東北工場

第1工場：宮城県大崎市田尻小塩字五代江東 1 0 8

第2工場：宮城県大崎市田尻大嶺字薬師 5 3 － 6

(3) 管理責任者氏名及び連絡先

環境管理者 坂井 聡一郎

電話 03－5753－6632

FAX 03－3766－8121

e-mail s-sakai@meiougasei.co.jp

組織の概要・対象範囲

(4) 事業活動の概要

電子部品用精密プラスチック射出成型品の加工、
金型及び関連自動機の設計及び製作

(5) 事業の規模及び認証・登録対象範囲

事業所	床面積	従業員	売上高	登録範囲
本 社	149.37㎡	4名	404.09百万円 (会計年度実績)	全組織・全活動
第1工場	1,267㎡	0名		
第2工場	2,410㎡	34名		

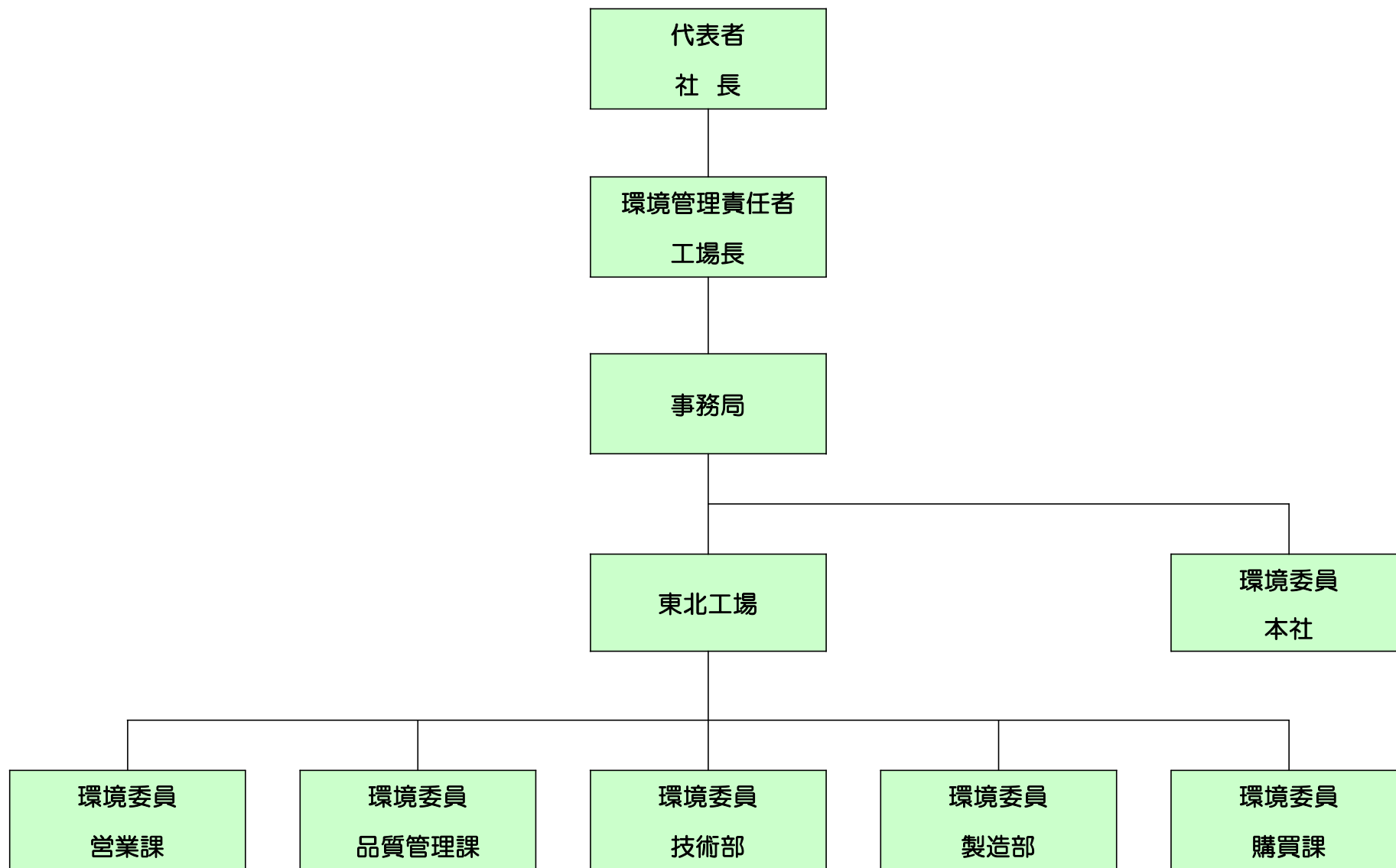
※本社業務内容：総務・営業

※東北工場

第1工場業務内容：製造

第2工場業務内容：総務・技術・営業・品管・購買・製造

環境経営組織図



役割、責任・権限

組織名称	役割、責任・権限
代表者	a.環境経営方針を決定する。 c.環境管理責任者を任命する。 e.システムの評価と見直しを行い、必要な指示を環境管理責任者に行う。 b.環境経営システムを承認する。 d.資源（人、設備、費用、時間）を用意する。
環境管理責任者	a.環境経営目標及び環境経営計画等を承認する。 b.環境統括責任者に代行し、環境経営システム全体を統括管理し指揮する。 c.取り組みを評価する。 e.緊急時における対応を指示する。 g.代表取締役へ運用状況を報告する。 d.苦情処理に対応する。 f.環境経営システム全般の運用を監視する。 h.課題とチャンスの明確化。
事務局	a.環境経営目標及び環境経営計画の策定する。 c.環境経営システムの運用を推進する。 e.各種報告書を作成する。 g.条例・法令を管理する。 i.外部からの問い合わせに対応する。 b.教育訓練・目標計画を策定する。 d.環境負荷と原因となる活動を特定する。 f.環境経営レポートを作成して公開する。 h.文書及び記録を管理する。 j.是正・予防処置を検討する。
環境委員	a.環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画に従業員に周知する。 b.環境経営目標、環境経営計画の実行指示及び推進状況の把握を行い、事務局へ報告する。 c.部署に関連する法規制等を遵守する。
従業員	a.環境管理責任者、事務局及び環境委員の指示に基づき行動する。

環境経営方針

環境理念

株式会社 明王化成は、超精密自動インサート成形システム及び自動検査梱包システムの設計・開発・製造と自社固有技術を駆使し、電子部品のパイオニアとして業界におけるリーダーを目指し、自然環境との調和及び地域社会との共生を大切にし、環境管理活動を推進することを重要課題の一つとして取り組みを進めてまいります。

基本方針

環境経営方針は、経営における課題とチャンスを踏まえるとともに、次を基本指針として取り組みます。

1. 具体的な取り組み内容。

1) 二酸化炭素（CO₂）排出量の削減。

インサート成形機等工場及び事務所の使用電力・化石燃料の消費による二酸化炭素の排出量の削減を進めます。

2) 廃棄物の削減。

廃棄物発生抑制や不要物の分別、再資源化を推進し、廃棄量の最小化と適正処理を進めます。

環境経営方針

- 3) 水資源の削減。
水資源使用削減のため、工場、事務所で使用する上水道の削減を進めます。
- 4) 環境法規の遵守。
環境関連の法規を遵守し、環境汚染の予防に努めます。
2. 自らが生産・販売・提供する製品の、省エネルギー型や省資源型の製品を設計開発に努めます。
3. すべての事業活動を通じて、環境に与えている影響を捉え、技術的・経済的に可能な範囲で環境経営目標を定め、全従業員による全員参加による環境保全活動を推進し継続的に改善致します。
4. エコアクション21に準拠し構築した環境経営システムに基づき環境保全活動を推進すると共に活動の取組状況を社内外に公表致します。

制定：平成26年11月25日

改定：令和2年1月1日

株式会社 明王化成

代表取締役 坂井 聡一郎

環境経営目標

区 分	環境目標	サイト	目標値の サイズ	基準年後の年 間増減率	単位	新基準値	目標値		
						2019年度～ 2021年度 平均値	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素	電気使用量の削減 本社 2019年度～2021年度の実績合計より算出 東北工場の基準値の算出根拠 2019年度～2021年度の実績合計より算出 2,874,998kWh/187.13百万個	本社	総 量	-1%	kWh	21,588	21,372	21,156	20,940
					kg-CO2	10,233	10,130	10,028	9,926
		東北工場	製品百万個当たり	-1%	kWh	15,364	15,210	15,057	14,903
					kg-CO2	8,635	8,548	8,462	8,376
		東北工場	総 量	-1%	kWh	958,333	948,750	939,166	929,583
		東北工場	総 量	1%	個	62,376,730	63,000,497	63,624,265	64,248,032
二酸化炭素	ガソリン使用量の削減	本社	総 量	-1%	%	664	657	651	644
					kg-CO2	1,542	1,495	1,480	1,465
		東北工場	総 量	-1%	%	2,824	2,796	2,768	2,739
					kg-CO2	6,556	6,360	6,294	6,229
廃棄物	廃棄物排出量の削減 本社：一般廃棄物 東北：一般廃棄物及び産業廃棄物	本社	総 量	-1%	kg	376	372	368	365
		東北工場	総 量			2,381	2,357	2,333	2,310
		東北工場	総 量	1%	kg	11,177	11,289	11,401	11,512
	段ボール・層間紙 リサイクル								
水／排水	水使用量の削減	東北工場	総 量	-1%	m ³	1,049	1,039	1,028	1,018
グリーン購入	グリーン購入の推進	本社	購入 比率		%	50	50以上	50以上	50以上
		東北工場				30	30以上	30以上	30以上
産業廃棄物 製品・サービス	生産ロスのリサイクル ※廃プラスチックのRPF 固形燃料化	東北工場	リサイクル率		%	100	100	100	100

※1 東北工場の電気使用量削減を原単位で目標値設定しているため二酸化炭素総排出量は設定しない。二酸化炭素総排出量の実績は環境活動レポートに記載して管理する。
 ※2 本社の水使用量は共益費に含まれるため目標値が設定できない。節水の取り組みだけを実施する。
 ※3 水使用量の基準年に付いては、2021年度は水道施設の破壊事故が発生し異常使用量となっているので、基準年を2017年度・2019年度・2020年度の平均とする。
 ※4 本社電気の二酸化炭素排出係数は、2017年度の調整後排出係数（東京電力エナジーパートナー：0.474）を用いた。
 ※5 東北工場の二酸化炭素排出係数は、2020年9月15日調整後排出係数 0.562（㈱グローバルエンジニアリング）を用いた。

環境経営計画と実績（電気使用量）



環境目標		目標値		目標達成手段		期間
電気使用量の削減	本社	20,946	kWh	①	不要な照明を消灯する。	通年
				②	空調の温度設定を作業効率に支障が出ない程度に抑制するとともに、空調設備の定期清掃を実施する。	夏季 冬季
	東北工場	14,903 （製品百万個当りの 使用量）	kWh	③	5S、ムダドリ、4M管理を徹底し、不良品の低減と生産性の向上することで電力の使用を低減する。	通年
				④	デマンドコントローラーにより、電気使用量を監視・管理する。	通年

【2024年度実績】

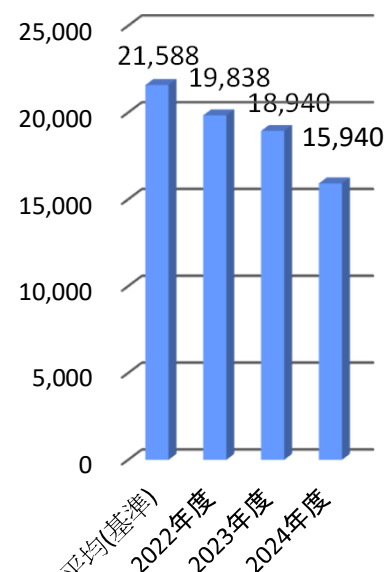
1. 本社実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	5,087	kWh	3,986	kWh	▼21.6%
2Q	5,087	kWh	4,261	kWh	▼16.2%
3Q	5,087	kWh	3,767	kWh	▼25.9%
4Q	5,087	kWh	3,904	kWh	▼23.3%
年間	20,946	kWh	15,918	kWh	▼24.0%

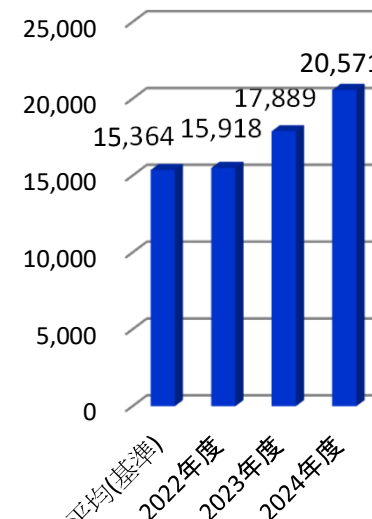
2. 東北工場実績（製品百万個当りの使用量）

期間	今期目標		実績		対比
1Q	14,903	kWh	22,656	kWh	△52.0%
2Q	14,903	kWh	21,033	kWh	△41.1%
3Q	14,903	kWh	18,858	kWh	△26.5%
4Q	14,903	kWh	18,987	kWh	△27.4%
年間	14,903	kWh	20,571	kWh	△38.0%

本社購入電力(kWh)



東北工場製品百万個当りの購入電力(kWh)



環境経営計画と実績（電気使用量）



【評価と次年度の取組】

〈評価〉

1) 目標

①本 社: 達成。

②東北工場: **未達成**。

2) 要因

①本 社: 製造業の景気悪化に伴い、昨年同様休業制度を継続導入したことによる事務所のエアコン使用日数が減少したことにより、必然的に電気使用量が減少し、目標が達成しております。

②東北工場: 受注生産数の減少に伴い、第1工場の自動運転成型機を第2工場に集約したが、手入れインサート成形機までは移動できず一部の手入れインサート生産を第1工場にて生産を行なわなければならない、電気使用の効率の悪い生産活動をせざる得なく、100万個当りの電気使用量が増え目標を達成出来ておりません。

弊社客先にも、ハウジング需要の回復遅れと世界情勢(戦争)が悪化し世界的に回復に至っていない情勢です。
また、米中対立を背景に、半導体などの各国の中国向け輸出に制約がかかっており、中国の輸入が抑制されているのも要因ですが、逆に中国国内の技術水準が上がり、これまで輸入していた製品が中国国内で生産可能になっているので、今後の製造業は更に厳しい状況と考えます。

〈是正・予防処置〉

②東北工場: 今後も米中対立が続きますので、各顧客・各業者との綿密な情報交換と交渉が重要となります。
効率の良い自動化の生産開発と、少注文品(手入れインサート成形)のロボット化も考慮に入れなければならないと考えます。

〈次年度の取組み〉

①本社(営業): 次年度の取組みは無しとなります。

②東北工場: 少生産に対応できる自動化生産活動を考える。

環境経営計画と実績（ガソリン使用量）



環境目標		目標値		目標達成手段		期間
ガソリン使用量の削減	本社	644	ℓ	①	エコドライブを実施する。県外移動は公共機関を優先する。	通年
	東北工場	2,739	ℓ	②	工場間の移動は乗り合いを促進し、遠出はエコカーを優先する。	通年

【2024年度実績】

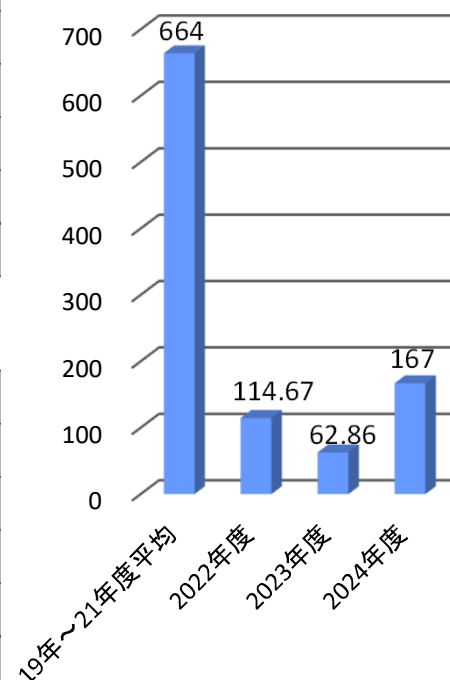
本社実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	161	ℓ	38	ℓ	▼76.4%
2Q	161	ℓ	56	ℓ	▼65.2%
3Q	161	ℓ	54	ℓ	▼66.5%
4Q	161	ℓ	19	ℓ	▼88.2%
年間	644	ℓ	167	ℓ	▼74.1%

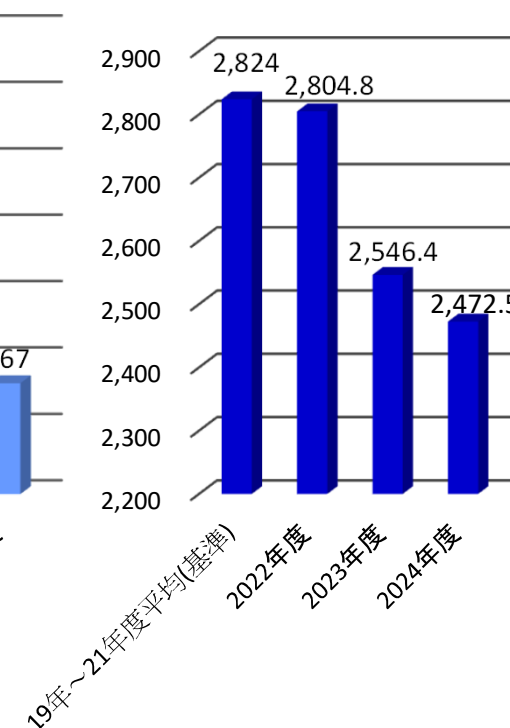
東北工場実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	684.8	ℓ	461.2	ℓ	▼32.7%
2Q	684.8	ℓ	616.6	ℓ	▼10.0%
3Q	684.8	ℓ	661.6	ℓ	▼3.4%
4Q	684.8	ℓ	733.2	ℓ	△7.1%
年間	2,739	ℓ	2,472.5	ℓ	▼9.7%

本社ガソリン使用量
(ℓ)



東北工場ガソリン使用
量(ℓ)



環境経営計画と実績（ガソリン使用量）



【評価と次年度の取組】

〈評価〉

1) 目標

①本 社: 達成。

②東北工場: 達成。

2) 要因

①本 社: 客先とWEB方式が定着し、訪問することが極端に減少したことにより車での移動が激減したことによるガソリン消費が継続減少しております。

②東北工場: 第1工場の第2工場に自動成型機の集約により、第1工場の部材の払出しの移動によるガソリン消費が減少。
但し、技術試作と駒の研磨機使用の 第2工場⇄第1工場 の移動は従来と同様となっております。。

〈次年度の取組み〉

①本 社: 次年度の取組みは無しとなります

②東北工場: 遠出の際はエコカープリウスを利用し、通常ガソリン車の利用を抑える。
技術の試作活動を計画性を持った第2工場⇄第1工場移送を行う。

環境経営計画と実績（一般廃棄物排出量）

環境目標		目標値	目標達成手段	期間
一般廃棄物排出量の削減	本社	365 kg	① 3R(Reduce, Reuse, Recycle)を徹底する。	通年
			② 廃棄物の分別を徹底し、紙類は出来るだけ古紙回収業者にリサイクルする。	通年
	東北工場	2,310 kg	③ ミスコピーを低減し、両面コピー・ミスコピーの裏紙を使用する。	通年
			④ 5S、無駄のない職場づくりで廃棄物の発生を低減する。	通年

【2024年度実績】

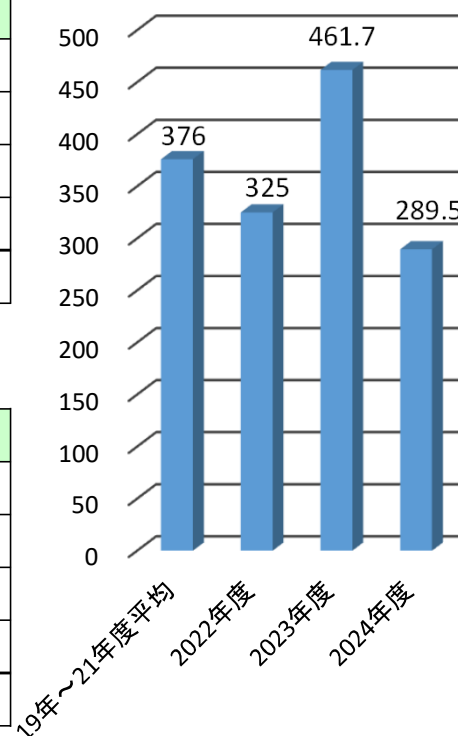
本社実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	91.3	kg	59.85	kg	▼34.4%
2Q	91.3	kg	51.3	kg	▼43.8%
3Q	91.3	kg	42.8	kg	▼53.1.4%
4Q	91.3	kg	135.6	kg	△48.5%
年間	365	kg	289.5	kg	▼20.7%

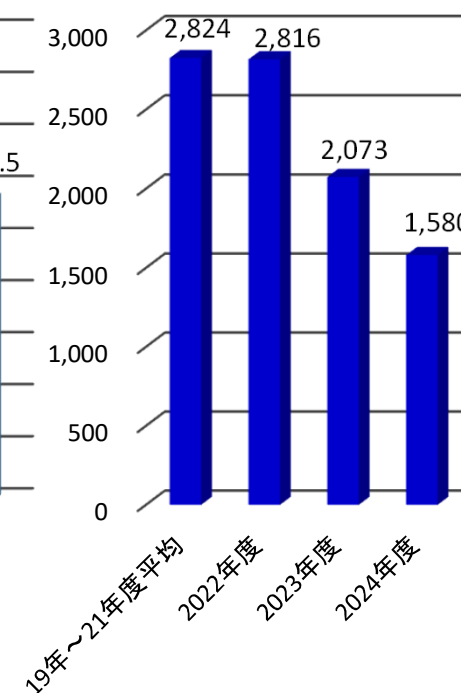
東北工場実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	577.5	kg	405	kg	▼29.9%
2Q	577.5	kg	385	kg	▼33.3%
3Q	577.5	kg	430	kg	▼25.5%
4Q	577.5	kg	360	kg	▼9.1%
年間	2,310	kg	1,580	kg	▼37.7%

本社一般廃棄物(kg)



東北工場一般廃棄物(kg)



環境経営計画と実績（再資源リサイクル量）

【2024年度再資源（紙類）リサイクル量(kg)】

期間	2019年度～ 2021年度 (基準年)	2022年度	2023年度	2024年度
1Q	2,507	2,790	1,674	1,440
2Q	3,203	3,090	1,165	1,185
3Q	3,443	2,730	1,395	1,177
4Q	2,637	3,130	2,285	1,214
年間	11,790	11,540	6,519	5,016

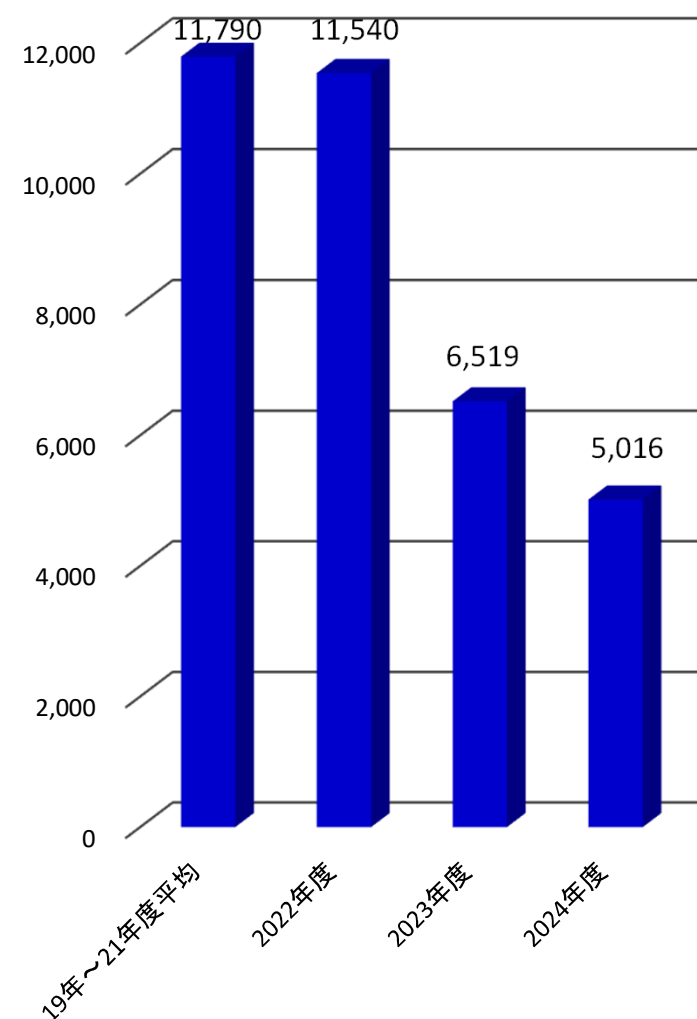
1. 再資源リサイクル品目（2024年度）

1) ダンボール(4,305kg)

2) 層間紙+コピー裁断品(711kg)

※2024年度も紙類（段ボール・層間紙）の再資源化（リサイクル）が実施
出来ております。

再資源（紙類）リサイクル量(kg)



環境経営計画と実績（一般廃棄物排出量）

【評価と次年度の取組】

〈評価〉

1) 目標

①本 社: 達成。

②東北工場: 達成。

2) 要因

①本 社: コピー用紙の両面使用を継続使用によって廃棄書類の削減が継続に出来ております。
但し、9月本社移転に伴う廃棄量は増えております。

②東北工場: 紙類のリサイクル分別による、焼却が継続減少出来てます。⇨ リサイクル化が根付いております。

〈次年度の取組み〉

①本 社: 次年度の取り組みは無しとなります。

②東北工場: 紙類は出来るだけ古紙としてリサイクルを行う。
層間紙の色別の区分けを継続し、リサイクル処理を確実に行う。
ダンボールに付いては、再利用可能なものは再使用とし、再利用出来ないものは確実に再資源処理を継続実施する。

環境経営計画と実績（水道使用量）



環境目標		目標値		目標達成手段	期間
水道使用量の削減	東北工場	1,018	m ³	① トイレ、洗い場に節水の掲示を行い、節水を呼びかける。	通年
				② トイレ大の貯水タンクにペットボトル(1L)を投入し節水をする。	通年
				③ 強アルカリ洗浄の中和に要する水を、サンポール使用にて水使用量を削減する。	通年
				④ 見回り点検と水道メーター確認を行う。	通年

【2024年度実績】

東北工場実績

期間	今期目標		実績		対比
1Q	254.5	m ³	587	m ³	△130.6.1%
2Q	254.5	m ³	131	m ³	▼48.5%
3Q	254.5	m ³	123	m ³	▼51.7%
4Q	254.5	m ³	106	m ³	▼58.3%
年間	1,018	m ³	947	m ³	▼7.5%

【評価と次年度の取組】

〈評価〉

- 1) 目標: 達成。
- 2) 漏水有り。
2024年1月に第2工場建屋と旧校舎の間にて漏水を発見する。

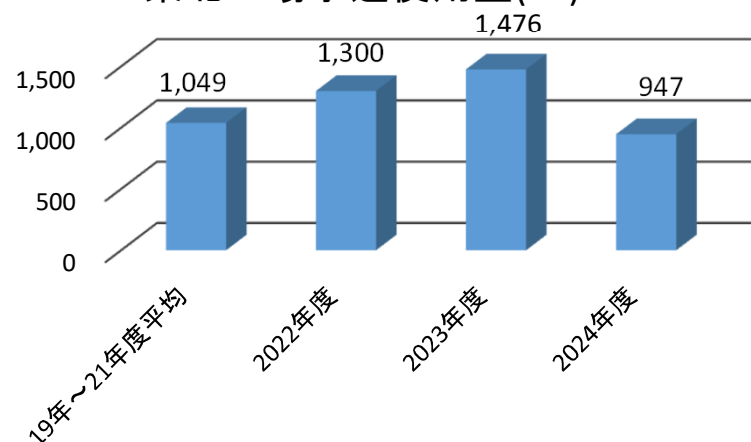
〈是正・予防処置〉

東北第2工場: 漏水箇所を修理実施。
旧校舎との配管の継ぎ目を無くし、末端を止める修理を行う。

〈次年度の取組み〉

東北第2工場: 水漏れ常点検を継続実施する。(早期発見)

東北工場水道使用量(m³)



環境経営計画と実績（グリーン購入の推進）



環境目標		目標値	目標達成手段	期間
グリーン購入の推進	本社	50%以上	① エコ商品マークの購入を積極的に進める。	通年
	東北工場	30%以上	② 出来る限り「エコマーク取り扱い業者」から購入。	通年

【2024年度実績】

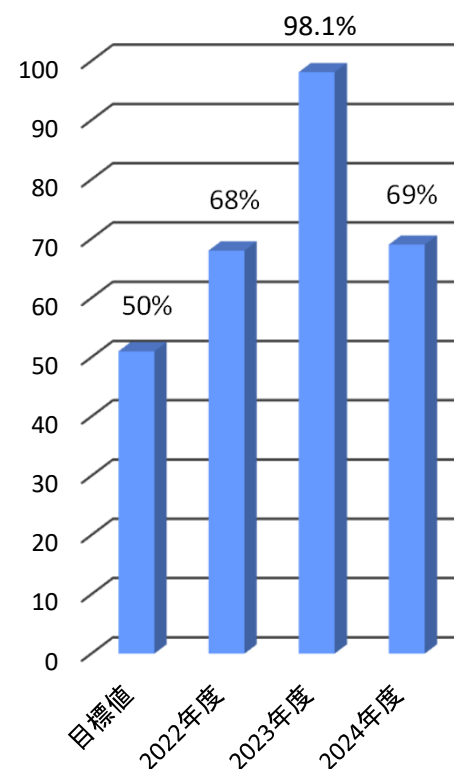
1. 本社実績

期間	今期目標	実績	比率
1Q	5,675	1,251	22%
2Q	2,710	1,060	39%
3Q	12,751	12,751	100%
4Q	2,750	1,354	49%
年間	19,408	19,031	69%

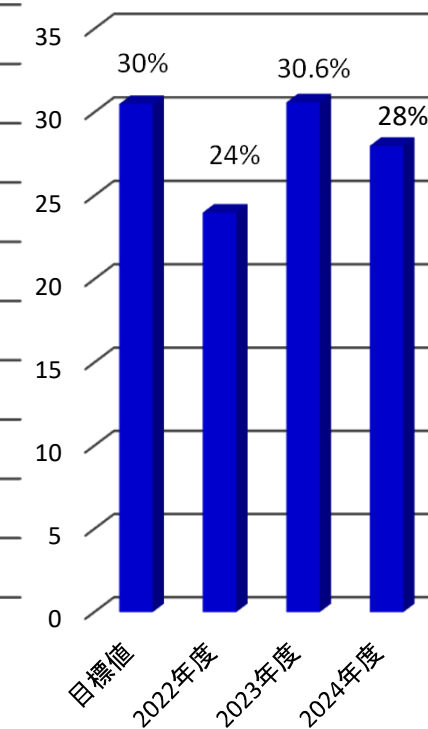
2. 東北工場実績

期間	今期目標	実績	比率
1Q	110,523	31,457	28%
2Q	131,100	30,705	23%
3Q	111,666	37,738	34%
4Q	—	—	—
年間	353,288	99,900	28%

本社グリーン購入割合率(%)



東北工場グリーン購入割合率(%)



環境経営計画と実績（グリーン購入の推進）



【評価と次年度の取組】

〈評価〉

1) 目標

①本 社: 達成。

②東北工場: 未達成。

2) 要因

①本 社: 事務購入品を殆どエコ商品を主に購入を継続した結果、達成となります。

②東北工場: 購入品には優先的にエコ商品を選定し購入は継続行っているが、消耗品（蛍光灯・伝票類）の購入が多く、価格等の比較でエコ商品の価格より他の商品との差があり過ぎる場合は、価格優先で購入を選定していることによる要因もあり、今年度は未達成となります。

〈次年度の取組み〉

①本 社: 次年度の取り込みは無しとなります。

②東北工場: 今後グリーン購入率調査の本社機能がなくなりますので来年度は無しとなります。記録はなくなりますが、今後も優先的にエコ商品の購入は継続行います。

環境経営計画と実績（生産ロスのリサイクル）

環境目標		目標値		目標達成手段		期間
廃プラスチックのRPF固形燃料化。	東北工場	100	%	①	リサイクル不可の廃プラスチックをRPF固形燃料処理する。	通年

【2024年度実績】

1. 東北工場実績

期間	廃プラ量(kg)		RPF固形燃料(kg)	率
1Q		—		—
2Q	2,950	100%	2,950	100%
3Q		—		—
4Q		—		—
年間	2,950	—	2,950	100%

【評価と次年度の取組】

〈評価〉

プラスチック廃棄物は、全てRPF石炭代替燃料に処理を実施しております。

〈次年度の取組み〉

樹脂廃棄品は、全てRPF石炭代替燃料処理とする。
※RPF石炭代替燃料に適さない廃プラスチックが発生した場合は、産廃業者殿に相談し環境に配慮した適切な処理を行う。

二酸化炭素排出量（実績）の推移



【2024年度二酸化炭素排出量実績】

エネルギー	2019年～2021年度 平均（基準）	2022年度	2023年度	2024年度
購入電力	508,478	532,763	485,977	448,612
ガソリン	6,835	6,773	5,912	6,476
灯油	615	505	1,024	0
軽油	85	199	79	354
二酸化炭素 総排出量	516,013	540,240	492,992	455,442

※－1. 単位：kg-CO₂

※－2. 温室効果ガス排出量＝活動量×排出係数

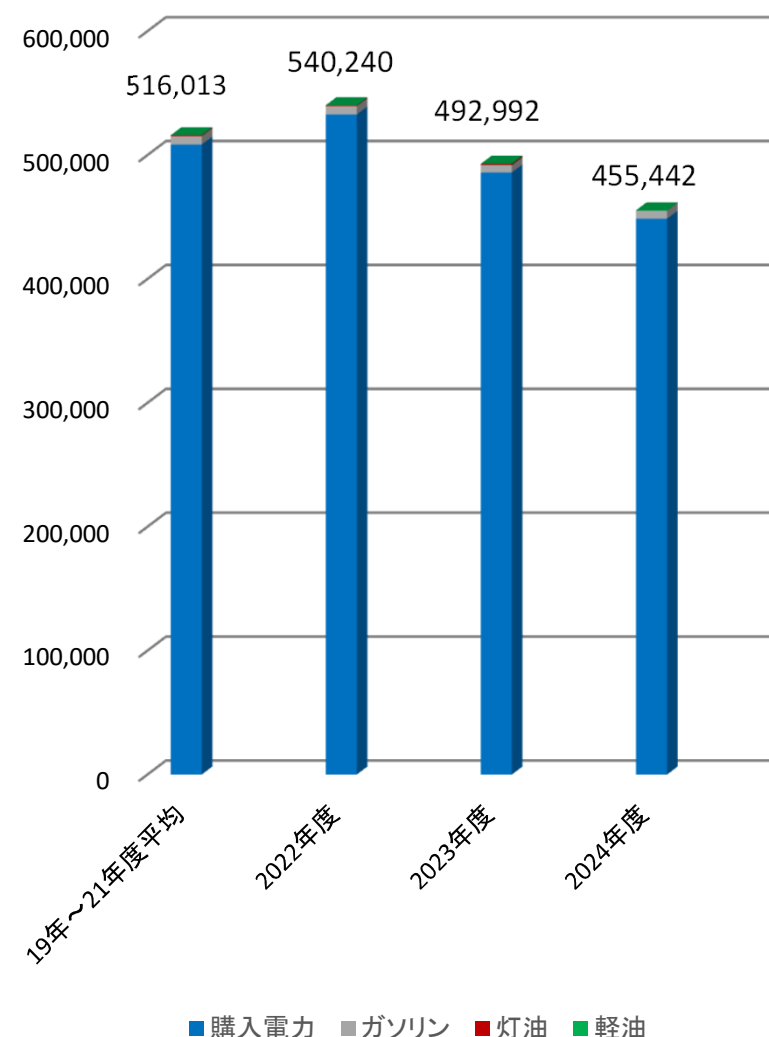
※－3. 排出係数

①本社：0.474（東京電力エナジパートナー(株)の2018年度実排出係数）

②東北工場：0.562（(株)グローバルエンジニアリング2020年度排出係数）

※－4. 新基準年度（2019年～2021年度の平均）と比較し、購入電力量の二酸化炭素排出量は、**マイナス -11.7%の”Down”**となります。

二酸化炭素総排出量(kg-CO₂)



環境関連法規への違反、訴訟等の有無

法規制の名称	遵守状況の確認及び結果	違反・訴訟の有無
廃棄物処理法	遵守されている。	無し
小型家電リサイクル法	遵守されている。	無し
家電リサイクル法	遵守されている。	無し
フロン排出抑制法	遵守されている。	無し
PCB特別措置法	遵守されている。	無し
浄化槽法	遵守されている。	無し
自動車リサイクル法	遵守されている。	無し
騒音・振動規制法	遵守されている。	無し

1) 遵守状況

遵守点検の結果、適用される環境関連法規等が遵守されていることを確認致しました。

2) 違反、訴訟等

過去3年間、関係機関等からの指摘、地域からの苦情・訴訟等はありません。

代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

対象期間	2023年11月～2024年10月	実施日	2024年11月15日		
出席者	坂井 聡一郎 佐藤 文昭	社長		記録者	
	管理責任者等の報告内容	社長の評価及び指示			
		今年度の評価（実施体制）	次年度への改善指示		
前回見直しの社長指示への取組み結果	審査是正の改善・見直し実施。	適切に運営出来ている。	新組織での継続改善・見直しを行う事。		
審査指摘事項の改善状況	- 環境関連法規の見直し - 環境活動計画書の見直し - 環境活動レポート作成見直し	適切に運営出来ている。	引き続き審査人指摘事項に付いては継続改善を行う事。		
環境関連法規制の遵守状況	遵守している。	遵守され適切に運営出来ている。	新組織での引続き、法令遵守の徹底を行う事。		
環境目標の達成状況	- 電気使用量の削減 本社：達成、東北：未達成 - ガソリン使用量の削減 本社：達成、東北：達成 - 廃棄物排出量の削減 本社：達成、東北：達成 - 水道使用量の削減：達成 - グリーン購入の推進 本社：達成、東北：未達成 - 廃プラスチックFRP可：達成	全体的な取組内容に付いては前年と同様に問題ないと思われる。 ※製造業の景気回復が進まず受注数減少により、効率の悪い生産が続き特に、電気使用量の未達となっている。	新組織での目標設定取り組みを行う事。		

代表者による全体評価と見直しの結果

【全体評価】

環境活動計画書の実施状況	全体的に周知実施が出来ていると考えるが、未だ未達成の項目が見られるので、次年度の取組みも継続しつつ見直しも考量が必要と考えております。	第1工場の自動成型機を第2工場に集約を行ったが、客先納入優先順の活動を行わなければならない為、特に電気使用量の効率が悪い生産活動となっている。 ※稼働と電気使用量の生産数が見合わない手入れインサート成形が第1工場で行分けなければならないのが問題と考える。	新組織での設定取り組みを行う事。
是正処置・予防処置の実施状況	実施できている。	適切に運営出来ている。	新組織での設定取り組みを行う事。
緊急事態対応手順訓練の結果	実施できている。	適切に運営出来ている。	新組織での設定取り組みを行う事。 オイル漏れ／避難訓練は確実に実施する事。 大地震が発生する地域なので、避難訓練は必要
外部からの苦情・要望等	苦情無し。	適切に運営出来ている。	苦情等が起こらない活動を継続。
変更の必要性	環境経営方針	有り。	
	環境経営目標	有り。	
	環境経営活動計画	有り。	
	環境経営システム（実施体制）	有り。	

代表者による全体評価と見直しの結果

【環境経営システムの変更の必要性】

環 境 方 針			
変更の必要性	環境経営方針	有り	無し
	環境経営目標	有り	無し
	環境経営活動計画	有り	無し
	環境経営システム（実施体制）	有り	無し

来年度は新会社グループでの取り組みを行うようにする。
2025年度にて、環境経営目標の見直しを行う。

目標 (次年度からの中間目標)

環境経営目標一覧表

(2025年度～2027年度)

改定訂正 2024年12月21日

承認者	作成者
	

区 分	環境目標	サイト	目標値の サイズ	基準年後の 年間増減率	単位	新基準値	目標値		
						2022年度～ 2024年度 平均値	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素	電気使用量の削減 本社 2022年度～2024年度の実績合計より 算出 東北工場の基準値の算出根拠 2022年度～2024年度の実績合計より算出 2,579,344kWh/146,5037百万 個	東北工場	製品百万個 当たり	-1%	kWh	17,606	17,430	17,254	17,078
					kg-CO2	9,895	9,796	9,697	9,598
		東北工場	総 量	-1%	kWh	859,781	851,183	842,586	833,988
		東北工場	総 量	1%	個	48,834,561	49,322,907	49,811,252	50,299,598
二酸化炭素	ガソリン使用量の削減	東北工場	総 量	-1%	%	2,608	2,582	2,556	2,530
					kg-CO2	6,055	5,873	5,813	5,752
廃棄物	段ボール・層間紙 リサイクル	東北工場	総 量	1%	kg	7,692	7,769	7,846	7,922
水／排水	水使用量の削減	東北工場	総 量	-1%	m	1,241	1,229	1,216	1,204
総二酸化炭素	電気・ガソリン・灯油・軽 油	東北工場	総 量	-1%	kg-CO2	866,578	857,912	849,246	840,580
産業廃棄物 製品・サービ ス	生産ロスのリサイクル ※廃プラスチックのRPF固形燃料化	東北工場	リサイクル 率		%	100	100	100	100

- ※1 東北工場の電気使用量削減を原単位で目標値設定しているため二酸化炭素総排出量は設定しない。二酸化炭素総排出量の実績は環境活動レポートに記載して管理する。
 ※2 水使用量の基準年を2022年度・2023年度・2024年度の平均とする。
 ※3 東北工場の二酸化炭素排出係数は、2020年9月15日調整後排出係数 0.562（楸グローバルエンジニアリング）を用いた。